

## 祝辞

誉高等学校第三十七回の入学式が挙行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。決意も新たな皆さんと、これまで限りない愛情を注いでこられましたご家族の皆様に対し、心よりお慶びを申し上げます。

さて、新入生の皆さんは、期待と不安が交錯しつつも、希望に満ち、それぞれの夢を膨らませていることと思います。高校生としての第一歩を踏み出される輝かしい門出にあたり、大都会東京で2008年に起こったある出来事を紹介します。

それは、病院に受け入れを断られた後に脳内出血で死亡した妊婦さんのご主人のお話です。妊婦さんは、2008年10月4日の夕方頭痛などの体調不良を訴え、江東区のかかりつけの産婦人科医院に救急車で運ばれました。かかりつけ医は脳内出血の疑いがあると診断、緊急手術ができる病院を探したところ、東京都立墨東病院など8つの病院から受入れを断られました。ようやく受入れ可能な病院が見つかり運ばれたときには、既に呼び掛けなければ目を開けない状態で、緊急手

術の末、男児は助かりましたが、妊婦さんは脳死状態で3日後に亡く  
なられました。大変痛ましい出来事です。この後、ご主人は記者会見  
で次のように話しました。

電話口で搬送を次々と断られる産科医を見て「医療が発達している東  
京で、なぜ受け入れてくれる病院がないのか、やり切れない思いだっ  
た」と振り返りながら、「8年前に結婚した妻は、芯が強く優しい人  
柄でした。」と妻への愛を語り、妊婦さんが亡くなる7日の昼、無事  
に生まれた男児が保育器で病室に運ばれてきたことに対して「意識の  
ない妻の腕に赤ちゃんを抱かせてもらった。少しの時間、親子3人だ  
けで過ごした。妻と子どもが一緒に生きたのは3日間だったが、温か  
い配慮を頂けた」と一度は受け入れを断った病院に感謝を述べ、「将  
来、同じことが繰り返されないように医療が変わったら『変えたのは  
お前の母親だ』と言いたい」と男児に語りかけました。

最愛の妻を亡くし悲しみに打ちひしがれているときに、搬送を断った  
病院などに対しての思いを述べることなく、支えていただいた関係者  
に感謝し、将来に向けて同じような悲劇を繰り返さぬよう話すご主人

の姿は国民の感動を呼びました。今日入学された皆さんにはこのご主人のような心の持ち主であってほしいと願っています。

世の中には受入れ難いどうしようもない不条理なことがたくさんあります。でも、前を向いて生きていかねばならない、そんな時があるのです。だからこそ、苦しいときつらいときに決して他人のせいにすることなく自らの頭で考え行動し強く生きる力を、生き抜く力を、高等学校の素晴らしい環境、優秀な諸先生のご指導の下、学業に励み、多く友人たちともに歩む高校生活で身につけてほしいと願ってやみません。

ぜひともこれからの3年間を大切してください。

終わりに皆さんのご多幸と光り輝く前途をご祈念申し上げ祝辞といたします。

平成三十一年四月八日

愛知県議会議員 天野 正基